



会長就任にあたって



岩田 武雄

翠巒体育会会長

母校高崎高等学校は、本年創立九十周年という大きな節目を迎えるに至りました。この記念すべき年を翠巒体育会の皆様と共に慶祝できますことは本当に深い喜びでございます。

さて、皆様ご存知のように、本翠巒体育会は昭和四十九年に創立されました。前会長国峯善次郎氏（五十期・サッカー部OB）のかけ声で、各運動部OB会が横の線で手を携え、会員相互の親睦を図ると共に未組織OBの組織化、OB会確立をうながし、現役に対する効果的継続的な後援と強化活動を行うことを旗印に

現役の頃を少し振り返ってみたいと思います。

入学して西も東もわからない時に、近所の先輩からバスケット部に入るよう強く勧誘され、それまで水泳や卓球をやっていたのをきっぱりとあきらめたのでした。当時校舎焼失のため、教室は旧陸軍兵舎（高崎二中のあったあたり）で練習は高女（現高崎文化会館のホールあたり）を借りてやっていたのでした。同期生は皆勉強家でしたが、私は運動第一、勉強第二とバスケットボールに打ち込んでいました。バスケットボール用具なども先輩のおさがりを貰って使うので、靴の中で足がバクバクしているか、ダブダブのランニングシャツを着たりしているという時代でした。古川・五十嵐・塚越・川山・石黒が同期部員でした。

他の運動部では、国体で優勝したラグビー部の山口・落合・飯沼・中村・中島・高橋・岸（故人）、水泳の清水（メルボルンオリンピック出場）、東大のエースになった野球の吉田や浦野・早川・矢菅・柔道の全日本大会出場など実績を持つ鈴木・高経大教授になった須藤（故人）、高校教員の角田や三浦、木暮、サッカーの池内・佐保・清水など錚々たるメンバーがすぐ思い浮かびます。

当時と今とでは、校舎も体育館も運動場も大きく変わり、運動環境は県下一と違っていくらいいになりました。その上、同窓会、翠巒体育会の皆様の御援助・学校当局の努力と御理解のもと、母校九十周年記念事業として翠巒会館改築が竣工いたしました。今や合宿練習は昔日とは

比べものにならない程充実したものになるはずで。

過日、県高校総合体育大会（総体）が行われました。残念ながら成績は振いません。数年前までは、一位前商、二位高々が指定席のようで水穴前校長は、「翠巒体育八号」で「文武両道」ここに極まれり、といった感が致します」と書いておられます。そういう歴史を貫いて継承されるもの、継承されなければならぬものをつかりと後輩に認識してもらいたいものです。

母校高々が、大学へ入る為の通過点にすぎない学校であってほしくない、思いやりと協調性に富んだ個性的な文武両道を目指す山猿の集団であってほしいというのには、私達翠巒体育会全員の願いだと思います。

青春を充実したより楽しいものにする為にスポーツをすることがどんなに大切か、私達は皆よく知っております。そこで次のようなことを、皆様と共にやってゆきたいと思えます。どうか絶大なる御協力の程を御願ひ申し上げます。

- 一、伝統を重んじ、先輩後輩のつながりを絶やさないようにする。
- 一、OBが時々現役の前に顔を出し激励する。
- 一、推薦入学制について調査研究する
- 一、各部のわくをこえて強化の方策を立て、推進する。

最後に、母校高崎高等学校の一層の御発展と同窓会並びに翠巒体育会の皆様の益々の御活躍を祈念して会長就任御挨拶といたします。（53回・バスケット部）

汗 する こと



学 校 長

磯 貝 福 七

翠樹体育会の会員諸賢におかれましては、常日頃より本校の体育活動振興のため一方ならぬ御尽力を賜り、心より感謝いたしております。お陰様で本校も、創立九十周年を迎える運びとなりました。これも一重に同窓の皆々様の不朽不滅の御支援の賜物と厚く御礼申し上げます。さてこの度、「翠樹体育」に拙稿を寄せる機会を得ましたので、ここに所懐の一端を申し述べまして、会員の皆様の暖かい御理解と御協力をお願い致します。

本校の「教育目標」をつぶさに見ますと、大きく三点に概括できると思えます。すなわち、知、徳、体の教育であります。本校が創立以来標榜してまいりました、「文武両道」、「質実剛健」とは、まさしく、知育、徳育、体育の追究にほかならないと思えます。私が着任以来申しております、「信頼と礼儀のある教育」も

また、徳育の大切な一環であります。そして、徳育こそ、他の二育、すなわち、知育と体育の根幹を成すものなのであります。師弟の間に、「信頼と礼儀」なくして授業はできません。チームメイトの間に、「信頼と礼儀」なくしてスポーツは成立しないのであります。私が「信頼と礼儀のある教育」をモットーとする所以であります。

現今、国際化への教育の対応がかまびすしく論議されておりますが、私は、ここにも、「信頼と礼儀」の視点が確立されなければならぬと考えております。ところで、囲碁や将棋の棋士達の世界では、「脳味噌に汗をかくほど考える」という表現があると聞いております。一手指すのに、時には一時間、二時間の長考をする棋士達ならではの言葉であります。高

高のグラウンドに立てば、薫風の中、

今日も汗まみれになって激しい練習を続けている生徒の姿が至る所に見うけられます。「体に汗をかく」ことは、我々の日常経験するところであります。

では、「汗をかく」とは、いったいかなる意味を持つものなのであります。うか。「汗をかく」とは、努力をし、苦労をすることであります。しかしながら私は、「汗をかく」とは、何よりも、生きている実感を感じること、生の充実を感じることでなろうかと思っております。知育において脳に汗をかき、体育において体に汗をかく。高高には、こうした生徒が沢山いることを、私は自信を持って皆様にご紹介できると思っております。

今春の大学入試におきましては、職員生徒の心を一にした努力の結果、幸いにも、例年を上回る成果をあげることができました。これら現役合格者の多くの者が、高高の三年間を運動部員として活動してきた生徒達であります。高生も多くは、文字通り「文武両道」に生きております。翠樹体育会の皆様の歩いた道を、後輩達も元気に歩いていくことをお伝えしたいと存じます。

先般、九十周年記念事業の一つとして、翠樹会館の増改築が竣功いたしました。今後、運動部の合宿を中心として、有効適切に利用していきたいと考えております。多大なる御援助をいただき、有難うございました。筆を擱くに当り、会員諸兄の御健康と御活躍を祈念致します。

(昭和六二年五月)



新装なった翠樹会館

退任挨拶



前会長

国 峯 善 次 郎

本会会長退任に当り、御世話に成りました皆々様に御挨拶をさせて頂き戴きます。

昭和四九年五月、各運動部OB会の親睦と母校運動部への後援・並びにOB会未組織の解消の目的を以って発会した本会に対して、前同窓会長小山長四郎氏（18回）、現同窓会長原一雄氏（29回）を始めとする同窓会役員の皆々様、並びに発会当時の中野校長から、中沢、水穴、そして磯貝現校長に至るまでの学校当局には大変御世話に成り、心より感謝申し上げます。又各OB会の皆々様には発会当初、運営の方向付け、苦しい財政にもかかわらず事業への協力と、大変御世話に成り有難う御座居りました。又種々の御迷惑に対し深く御詫び申し上げます。

一〇年一昔と言いますが、今会報一号より目を通して見ますに、この一〇年は二昔にも、三昔にも感じ取って居ります。既に故人になってしまった会員、広告に賛助して戴いた会社の貴重な推移、奇禍された先輩・後輩が繰り広げた数々の人生ドラマ、運筆して居て様々な人間の不思議を感じ取って居ります。

私が現役時代から以後続けて高々運動部の後援をなされた井上房一郎氏より、昭和四八年夏、指月庭の前で「私も年老いて来たので、昔僕が面倒を見て居た君

達が、僕の代りに運動部を育てて行って欲しい」と話をされたのが始まりで、所属して居たサッカー部OB諸君に相談したり、OB会連合会の組織化を提案され、昭和四九年一月六日、少林山達磨寺七草

大祭の夜、本会顧問の岡田由重先生に相談、賛意を得、運動部長川嶋先生の協力指導を得て第一回会合を「みその寿し」で各OB会代表に御集り願ひ、本会発足の趣旨説明と発会についての意見を伺ひ、全員の賛成で発会する事と確認、以後数度、寒い体育教官室で準備会を催し、会則・運営等に就いて相談し、会の名称を「翠巒体育会」とし、五月一日48期・野球部OBの中島正氏の議長により、「翠巒体育会」が奇しくも創立九〇周年記念事業として増改築される「翠巒会館」に於いて発会した。

会報創刊号に於いて野球部OB本多饒君（五七回）が高々野球部に就いて奇稿され、五六年春念願の甲子園選抜大会に出場、貴重な落し子として「翠巒育英会」が発会したのも、野球部後援会長小山楢一氏（42回）から、甲子園出場に対して同窓会の募金協力謝意の意味で託された三千万円を体育会は食指を動かさず、自分達の力でとサッカー部・バスケット部・ラグビー部等々の全国大会出場に自力で募金活動をした結果からである。

体育会並びに各OB会は発会以来六年を待たずして、お互いに協力し合い単部で全国大会出場に際してチーム五百万円

の募金能力を持つまでに成長した訳で、母校愛が生んだ見事な力の集積だと確信して居ります。

斯様なバイタリティーが原同窓会長の心を動かし、五六年同窓会役員の見直しと意味合いで小森谷久氏（47回・水泳部）友松敬三君（61回・バスケット部）等の協力を得、活動出来る同窓会役員を推選を成し、同時に同窓会本部役員を選任も依頼を受け、本会から数名の本部幹事を推選、同窓会運営のそして正副会長の黒子的存在として同窓会活動の企画立案、運営に微力を盡して参りました。

又最近、各新聞社で記載され始めた同窓会総会記事の「高々方式」も、各期共翠巒体育会々員、即ち各運動部OB諸君が必ず中核の一員を成し頑張り、年々盛会にて新年総会が開催され行く事実は総会出席者全員が認めてくれていると確信して居ります。

ここ数年現役運動部の全国大会出場の話が我々OBに聞えて来ないのは寂しい限りであるが、OB諸君に御願ひしたい事があります。本会発足時に於いて、その活動の場はあく迄も校外に於いて成す可きで、決して教育の現場に立ち入らない、即ち我々の活動は校門より中に立ち入るまい、と固く申し合わせて今日迄活動して参りました。年を取っても昔の間が集れば顔の皺を忘れ、血気が先行すれば体育会は圧力団体と化けるのは明白で、学校の教育現場の混乱は元より、同窓会活動に運営に多大の御迷惑を御掛けする事は論を待たない。これだけは当初の精神から逸脱しない様に御願ひしたい。謙虚な気持ちで頼り甲斐のある兄貴分としての存在であつて欲しいと思ひます。

幸いにも岩田会長（53回・バスケット）はスポーツに就て私より数段もの識見を持ち、今後の体育会運営を安心して任せられる人格者です。先き程行なわれた群馬国体バスケット成年男子監督も勤め、その道の第一人者であります。又所属するバスケットOB会は歴史も古く有数の指導者を輩出して居り、要めの反町OB会長（50回）の元を集る素晴らしいOB会のリードオフマンであります。又副会長以下役員は永年の本会役員で、必ず岩田会長を支え、高校の段階で全国に類を見ない体育会を更に素晴らしく発展させてくれると信じて居ります。

我が同窓の中曾根内閣の元に臨教審では今後の教育の在り方に就て、数々の答申をされて居ります。今後如何様に世の中が、教育が、道徳が方向付けされようと、人間生きる術に於いて運動を撤去する事は出来ません。スペースシヤトルの中でも、深海艇の探索者も忍耐を要求されます。鍛えられた身体の主はこれからの社会で益々必要となります。現在余暇としてのスポーツ全盛時代であるが、近い将来、我々の予期しないスポーツが流行する時代が到来すると思う、それを楽しみに生き続けたい。

最後になりますが在職一二年間、数多くの先輩後輩にめぐり会い貴重な体験が得られた事を感謝すると共に天寿を全うして亡くなられた先輩諸氏、将来を嘱望され乍ら若くして亡くなった後輩諸君、青春のエネルギーを全開出来ずに悲しい別れとなった現役諸君の御冥福を御祈し、翠巒体育会の益々の御発展を期待し、退任の挨拶と致します。

（50回・サッカー部）

高校運動部に想う



前翠樹体育会事務局長

中原 射鹿止

人生五十年を過ごし回顧する時、高校時代の影響大なるものを感じる。自立心により社会的な枠内で精一杯努力すること、新しい道が開かれることを教えられたのはこの時期である。

28年入学当時は、まだ物質的に恵まれておらず、食糧にもこと欠く時代にラグビー部に入部し、はじめの一年間は何をしても良いやら考える間もなく過してしまつた。練習で走り疲れ、ねむい目をこすりながら予習をしたのも、翌日教室で立たされたままの授業に屈辱を感じたからである。毎日が苦しみの連続であつたがこれを支えてくれたのは、先輩達の会話から生まれてくるほのぼのとした楽しさと、隣りに住む女の子の励ましのひとことであつた。

二年の後半ともなれば、学校生活にも慣れ、体力にも自信がついたのか、後輩達を指導する余裕もでき、三年の夏休み後ともなれば、精一杯の苦労が楽しみとさえ感ずるようになった。国体、全国大会の出場もそれに花を添えてくれたのも事実である。

高々で18年間教員生活を送り、ラグビー部の指導に専念できたのも、この高校

三年間が、人生にとっていかに大切か、精一杯の努力とは何かを教えたかつたからである。教室で先生にしぼられ、また放課後ともなれば存分に走らせられる、そんな中に気分の発散があり、本当の仲間達との対話が生れて来るものである。

事務局を引き受けるに当って



翠樹体育会事務局長

富田 裕 二

この度、翠樹体育の事務局を引き受けさせていただく事になり、創刊号より八号まで格調の高い充実した内容の、この機関誌を読ませていただきました。

昭和四十九年に企画されて五十年に第一号が創刊され、以後、諸先輩の並々ならぬご努力により継続されて参りました。

この機関誌を今後も是非受け継いで行きたいと願っております。この翠樹体育の一冊一冊の中に高々の伝統が生きている

学業は、高校三年間は一過程であるが、運動部の充実した生活体験は、この時期しかできない。燃えれば燃える程、新しい力が湧いてくるものであり、何ごとにも変え難い財産である。

大学への現役合格を願うのは誰しも同じこと。しかしそれ以前に高校時代が基礎にあり、確立した指導者のもとで、精一杯汗を流し、若さを発散させることがなくてはならない。

現在の中教育の中で、本当の充実感あふれる生活は、運動部活動にしかできないと言えは過言であろうか。

(55回・現高崎北高教諭)

と言うことは実に素晴らしい事です。今年には創立九十周年を迎える記念すべき年であり、この様な記念の年に母校に赴任出来ました事は、この上ない光栄と思っております。

我々の在学中、戦後の何もない苦しい時代の昭和二十二年の秋に翠樹祭をやつて高中の伝統を守ろうと大いに頑張つて五十年記念の翠樹祭を行なつた事がなつかしく思い出されます。当時の古いア

ルバムを見て学生時代を思い返すと同時に四十年振りに毎日同じ校門をくぐることになり、新たな気持ちで今度は現役のために頑張る心算ですので宜しくお願致します。翠樹体育会も国峯会長(50回)

を始めとするOB会の皆様方の並々ならぬご努力により、各運動部のOB会の組織ががっちり出来上り、運動部の後援会として発足し、同窓会をも一層盛り上げる事が出来たのと同時に運動部に対し物心両面での暖かい御支援をいただき、現役運動部員の一層の励みになっております。本年より岩田武雄新会長(53回)を迎え、若返つたスタッフで新たな一歩を踏み出しました。今迄と同様一層のOB会の親睦と交流を計り、又母校の現況も先輩の方々によく知ってもらい、現役には立派な記録を残した先輩諸兄を見習つて実を上げてもらえる様、努力する覚悟しております。現在では八十周年記念事業として行なわれたグラウンドを始め、体育館、屋内総合体育館、武道館、トレーニング室、プール等県で随一の恵まれた施設を持ち、今回の記念事業として翠樹会館が新装成り素晴らしい機能を持った合宿所として完成されました。卒業生諸先輩の母校愛が後輩のためにこの様な立派な環境を作つて下さり、後輩が又この伝統を受け継いで行くと言うことは誠に有意義な事であり、我々現役を指導する立場の者は一層の努力をしなければと思っております。これからも部員顧問一体となつて成果を上げるよう頑張りたいと思っております。

(49回卒)

特別寄稿



古 い 日 記 よ り

清 水 貞 保



人の手が加えられたこともない原生林に入ると百年かそれとも二百年を過ぎて樹令を終った大木が倒れ、そして朽ちて土に化そうとしていました。周りには木の葉もおり重なっています。ふと足許に目をやると、ひよっこり木の芽が生えているではありませんか、この若芽、若木は朽ちか、つた大木から栄養を受けながら、しずかにしつかりと大らかに育っています。そして五十年、百年後には大自然を作り出してくれるだろう。

私もこの大木のようにすく／＼と育つ若木に栄養を与えることができたらと思いました。

それにしても大自然の営みは人の手にとどかない周期で営みをくりかえしています。教育の場もこんなようであって欲しいとつくづく思いました。

私も数十年若がえって教師にもどり襟を正してみたいと思います。教員となつて二十年程はホームルームで出席をとり、いつも真面目に学ぶよう説教をくりかえしながらこれといって、とりたてることもなく平々凡々と過してきたように思えます。

齢を重ねて五十路の坂にさしかかったある日ふと反省、今後私に残された年月をこのまゝ、すごしてよいのかと思ひ煩いました。

そこで総まとめとして若い人たちの将来あるべき像について自分なりにうなづける答えをだして、それに向つてひたすら努力しようと思ひました。

それは二十一世紀に活躍する今の若者たちという原点に立つて考えなければ、

国際間のきびしい条件には耐えられない。そしてこんな風に自分なりの目標が浮かんでまいりました。

それは一人一人を「体」の部と「頭」の部に分けて考えました。頭脳はあらゆる科学、芸術、文化などをすべてにすぐれ、しかもトップレベルに、「からだ」の部は私たち先祖がきびしい自然のもとで生きぬいた、たくましい力がますます「要求されてくるでしょう。

即ち「未来の頭脳」と「過去のずばぬけたたくましい体」の保持者ということであります。この二つの部分をいかに融合させるかが難問題です。この大切な場所が学校であり、そこに職を持つ教師の一人として至難なことに今後ひたすらとりくみたいと結論づけました。

このようなどてつもない考えをまとめる時、私の脳裡にはきまつて諸君の顔がうかびました。諸君はいつも私のバックボーンとして重要な役割りを擔つていたわけです。このことは今も生きつづけております。



翠樹体育会 会計報告

昭和59年度

会 計 阿久沢 茂
 監 査 東 秀和 (69回・サッカー部)
 監 査 大須賀 正臣 (51回・応援部)
 (57回・陸上部)

(単位：円)

| 収入の部 | | | | 支出の部 | | |
|------|-----------|------------|-----------|---------|------------|--|
| 項目 | 金額 | 備考 | 項目 | 金額 | 備考 | |
| 繰越金 | 326,832 | | 総会費 | 150,600 | | |
| 年会費 | 225,000 | @25,000×9部 | 餞別費 | 60,000 | 関東全国大会出場6部 | |
| 総会費 | 120,000 | @4,000×30名 | マラソン大会補助費 | 20,000 | トロフィー代 | |
| 助成金 | 500,000 | 同窓会より | 理事・役員会議費 | 102,440 | | |
| 雑収入 | 50,976 | | 事務費 | 56,000 | | |
| | | | 慶弔費 | 40,000 | | |
| 合計 | 1,222,808 | | 合計 | 429,040 | | |

差引残高 793,768円

先輩、頑張ってます

現役の抱負 その1



昨年を上回る成績を

バスケット部

北嶋 聡 二



我がバスケット部の今年のチームは昨年に比べると平均身長も高く、また昨年から試合に出ている選手も数人残っているので昨年を越す成績を残そうと頑張っている。

また我々は施設にも恵まれている。二、三年前に建てられたばかりの第二体育館を使わせてもらい、思う存分練習することが出来る。

一昨年、昨年と同様我がチームも体力にはあまり自信がないのでゾーンディフェンスを主体とした守りでそれにプレッシャーを織り混ぜている。オフシーズンでは従来のフォーメーション

や新しい物を考えたりしているいろいろなアイフエンスに対応できるようにしている。夏休みに行われた強化大会では準優勝、新人戦でも準優勝と昨年からずっと準優勝ばかりである。なんとしても優勝したいと思っている。もちろん最終目標はインターハイ出場である。

当面の目標はチーム全体のレベルアップとして、まずガード陣のパスワークの強化、センター・フォワード陣のコンビネーション、ミドルシュート、リバウンドの強化である。特にリバウンドは身長がありながらリバウンドボールを取れないので、スクリーンアウトの徹底などをしていきたい。

とにかく残り少ない日々を良き指導者の下で全員一丸となって、先輩たちの栄光に負けぬよう、また恥じることなく頑張りたいと思う。

勝利のための自覚と責任

ラグビー部

吉井 貴志



我が高崎高校ラグビー部は、昨年、一昨年と決勝トーナメントに出場しながら、

苦しくも花園出場という壁を打破することができず涙をのみました。現ラグビー部も、春の新人戦では、農二に3-11と破れ、このことに我々は危機感と共に大きな使命感を感じずにはいられません。ラグビーとは攻撃と防御が目紛るしく

変わるスポーツであり、一つのプレーが流れを変え、時には命取りになることさえあります。そんなラグビーで勝敗を分けるのはやはり、集中力ではないでしょうか。無論、高々ラグビー部は勝ち続けなければならず、決して長いとはいえない練習時間で、どれだけプレーに集中できるか、それには各個人の練習に対する自覚と覇気、そして執念が必要です。

そんな練習の成果を試すべく、今年は埼玉などへ遠征させていただけるよう、先日も熊工に遠征し、10-20と破れはしたものの、仕掛けの早さ、ディフェンスの鋭さなどを学ぶことができ、たいへん勉強になりました。これには顧問の先生方、OBの方々の御配慮に深く感謝すると共に、一層の責任と自覚を持ち、高々ラグビー部の伝統と実績を守るべく、これから奮起することを誓います。

又、我々が考えなくてはならないのはラグビー精神の把握とその高揚であり、日常生活グラウンドの上と外を通して、ラグビー精神に生きなくてはなりません。こういったことを踏まえ、一層努力を積み、秋には農二を破り、花園出場という壁を部員一体となって打破します。



翠樹体育会 会計報告

昭和60年度

監査 阿久沢 茂
監査 東 秀和
監査 廣田 誠四郎
(64回・陸上部)

| 収入の部 | | | 支出の部 | | |
|------|-----------|-------------|----------|---------|---------|
| 項目 | 金額 | 備考 | 項目 | 金額 | 備考 |
| 繰越金 | 793,768 | | 総会費 | 198,320 | ビューホテル |
| 年会費 | 250,000 | @25,000×10部 | 機関誌 | 285,000 | |
| 総会費 | 122,500 | @ 3,500×35名 | マラソン大会補助 | 20,000 | トロフィー代 |
| 助成金 | 300,000 | 同窓会より | 別費 | 40,000 | 関東大会、国体 |
| 雑収入 | 54,980 | 受取利息等 | 協賛金 | 50,000 | 空手全国大会 |
| | | | 理事・役員会議費 | 148,640 | |
| | | | 事務費 | 39,500 | |
| | | | 慶弔費 | 117,000 | |
| 合計 | 1,521,248 | | 合計 | 898,460 | |

差引残高 622,788円

(単位：円)

勝利を目指して バレー部

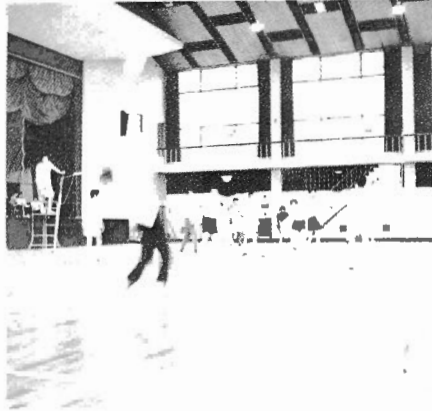
市川 正一



このところ我がバレー部はベスト8以下の成績に甘んじています。ベスト8

には勝ち残るもののベスト4の壁を破ることができずあと一步という所まで来ながら敗北を喫して来ました。理由はなにか、それは我々の勝負に対する甘さ、こ

こ一番の集中力が欠けているからではないかと考えられます。このことを大いに反省し、一人一人が厳しいバレーをしていくように心がけています。



と守りを堅くしていく必要があります。短時間の練習ではありますが内容の濃い効果的な練習をしていこうと考えています。

最後の大会を控えそれに賭ける意気遣いは大変なものです。一人一人の勝ちに対する欲求は大きなものとなっています。今や、一人一人の気持ちが一つになるのを感じています。チーム一丸となって戦えば必ず勝ち進むことができるでしょう。今度こそはと頑張る心算です。OBの方々が時折、指導に見えて下さり、非常に感謝しております。その先輩方の期待に答えるためにも頑張りたいと思います。

また、新チームへのバトンタッチを目前にして、後輩にバレー部のすばらしい伝統を遺さなければなりません。次のチームは一年中心になるでしょうが、非常に優れた素質を持っています。この素質を生かすも殺すも我々次第と肝に命じバレー部の輝やかしい伝統を汚さぬよう力一杯戦います。

総体を終えて

硬式テニス部

村上 正和



我々三年生にとつての最後の試合である総体(団体戦)を終えて、違った角度から部活を見ることができたような気がします。

テニスというスポーツは、シングルな

ら相手と自分の二人だけ、ダブルスでも四人という個人競技のものです。それゆえに、その一人のプレーヤーにかかるプレッシャーは相当なものです。そうした状況の中でのプレーで、一番の敵というのは自分自身なのです。ボールに集中し自分のプレーさえできれば、対戦相手など関係ないのです。また、一面では、自分のミスはだれにも迷惑をかけるのではありません。テニスとは、そういうスポーツであり、部活としても、一つにまとまらないというのが現状でした。

しかし、我々テニス部がようやく一つになったのです。それが、今度の団体戦でした。

試合当日、僕はこんなことを思っていました。「過去に先輩達が残してくれた成績に負けないよう少なくともベスト4には入らなければ」。我々は、この試合に、二年間のすべてをぶつけました。が力及ばず、勝てませんでした。しかし、今回の負けは、テニスの負けとは異質のものでした。勝てば勝ったで全員で喜び負けたときには、全員で惜しさをかみしめたのです。この時、僕は思いました。「確かに個人競技であるかもしれないけど、こうやって全員で一つになれるんだ」

部活として活動する以上「勝利」というものを目標にするのは当然です。しかし単にそれだけのものだったなら、とても悲しい気がします。良い成績は残せませんでした。我々の惜しさと部活の一面を一緒に感じとつた後輩達が、これからの硬式テニス部をよりいっそう発展させてくれることを信じています。

翠樹体育会 会計報告

昭和61年度

会計 阿久沢 茂

監査 東 秀和

監査 廣田 誠四郎

(64回・陸上部)

| 収入の部 | | | 支出の部 | | |
|------|-----------|------------|----------|---------|----------|
| 項目 | 金額 | 備考 | 項目 | 金額 | 備考 |
| 繰越金 | 622,788 | | 総会費 | 233,740 | ビューホテル |
| 年会費 | 200,000 | @25,000×8部 | マラソン大会補助 | 20,000 | トロフィー代 |
| 総会費 | 112,000 | @4,000×28名 | 別費 | 15,000 | バスケット・陸上 |
| 助成金 | 300,000 | 同窓会より | 理事・役員会議費 | 118,000 | |
| 雑収入 | 32,322 | 受取利息等 | 事務費 | 40,000 | |
| | | | 度弔費 | 64,280 | |
| 合計 | 1,267,110 | | 合計 | 491,020 | |

差引残高 776,090円

(単位：円)

先輩、頑張ってます

現役の抱負 その2



真の応援団とは

応援部

桜井 健一



「翠樹祭」も近づき我々応援団の意気もあがり、心身ともに気

合いを入れて、緊迫した雰囲気の中毎日練習している。この応援団は年々部員数も増え、それに比例して団結力もどんどん強くなってきている。部員の中には、くさった根性の奴はいないので、実際に「リーダー公開祭」もうまくいくだろう。また、俺自身それを期待している。それに見に来てくれる人にもそういう気構えで来てほしい。そうすれば、部員も予想以上の力を発揮し、名実ともに翠樹祭の看板となることは言うまでもない。とにかく、我々も全力を尽くすので是非見に

きて応援魂を感じてもらいたい。

また、その後にある野球の応援も我々の重要な仕事の一つである。これこそは絶対、生徒会員やOBなどの一般の人の協力を強く要望したい。そうすることによってたとえ観戦にきていても応援することにより、野球部といっしょに試合をしたというすがすがしい気持ちの後ではつきりあらわれるはずである。だから、是非、部員以外の協力が必要である。

しかし、協力するといってもいきすぎほど手のつけられないものはない。それと同時に我々に不快感をあたえる。大きなことをいうようだが我々は応援のプロである。いわば御意見無用の軍団である。そんなことで統制をくずされては真の応援はできはしない。それに応援の生命線でもある命令系統を破壊されてしまつては応援どころではない。だから自分の態度をこころえて、高々勝利につくそうではないか。

再浮上めざして

水泳部

奥山 俊幸



ここ数年における県内、国内等の水泳競技の急激なレベルアップに対して、

他校などと比べても練習時間が短いと思われる我水泳部にとって、好成績を上げることが残念ながら難しい状態となつてきている。ところが、学業その他の兼

ね合いもあつて、あまり多くの時間をとることもできないので、当然質の高い練習が望まれる。そこで今年は例年はほとんどシーズン・オフにしか行なわれなかつたランニングや筋力トレーニングなどをシーズン中にも適度に織り込み、当たり前のことであるが、基礎体力の充実を図ろうとしている。泳ぎの面でもサークルなどをできるだけ短くして、多少ピッチを上げた練習を心掛けようと思つている。

また、去年、今年と部員が大幅に増加し、多少の変動はあるものの現在二十五名であり部自体、なかなかの活気も出てきている。例年通り初心者指向が強いがかなり有望な選手も入つてきている。初心者にあつては適切な指導をし、早く我々のペースに溶け込めるようにしてやりたいと思う。

当面の目標は、関東大会出場である。以前の水泳部から見ればほんのちっぽけな目標かも知れませんが、高々水泳部再浮上のための第一歩として大切にしたいと思う。さし当つては6月に控えた定例の合宿を克服すべく頑張りたいと思う。

「勝つ」こと

卓球部

堀江 義賢



スポーツは勝つ事を目的とする。この意義において、今季の卓球部は完全な敗

北者かもしれない。新人戦から今日に至るまで、我々の成した成績で表彰台上れるようなものは一つとして無かつた。原因は色々と考えられる。練習の量や質の問題、また私の指導力不足などだ。だが、非力であつても、それぞれが頑張つたと私は自負している。

このように、芳しい成績の残せなかつた我々ではあつたが、勝利の美酒を一度だけ味わうことができた。それは無論、関東大会やインターハイでのものではないが、それに匹敵する、いやそれ以上の感動を私に与えた勝利だつた。定期戦部対抗の勝利である。この対戦を目前にした大会で前高は団体戦に優勝し県を制覇していた。対する我々は二回戦負けである。勝負は見えたかと思えた。が我々は奇蹟とも思える勝利をし、定期戦も一点差で逆点優勝したのだつた。その瞬間、我々は勝利に酔い、努力は無駄でなかつた事を悟つたのである。

卓球もスポーツである以上勝たねば意味がない。しかし勝敗は良くも悪くも、「運」を含んだ結果にすぎない。無論結果も大切だが、勝とうとする意志や努力こそ、スポーツの本当の意義ではないか。我々は勝利の酔狂と、敗北の苦水を味つた。これからはこの二つの味を思い出しながら、定期戦だけでなく、全国大会につながる試合も、同じ心構えで臨みたいと思つている。



「創造力」あるチームを サッカー部

佐藤 育男



僕たちがチームの中心となった、新人戦、総体では、なかなか強いチームと試合する目前で破れ去ってしまった。新人戦はPK合戦負け（もともと試合中僕がPKを外した結果だった）。総体は点が取れず1-0で負けという惨々たる結果となつてしまった。

僕自身、身を持って痛感したことは、個々の一つ一つのプレーに対する創造力の大切なことだ。よく選手一人一人は、監督（指揮者）の好む音楽を奏でる演奏家と言われるように個々はその創造力と精神力で、プレー一つ一つを演奏してみせるのである。といってもこれは、ワールドクラスの話なのだけれども、どのレベルでもそのチームが意のままにゲームを操るのが理想であろう。創造力豊かな選手であればあるほど、相手の意表をつくプレーができる、と思う。

高々においては、そういった創造力に富んだ人は少ないのではと思われる。僕を含めて思うことだが、次のプレーへの予想が常に発揮されていない。どんなスポーツでも試合を「読む」ことは大切で、絶対必要だと思う。

この文章を書いている今、僕たちは、インターハイ県予選優勝を目指して、燃えつきるまで、以前とは比べものになら

ないほどの闘志をもって、中間テスト間近だというのに、それ一本にかけている。次の新チームのためにもインターハイはベスト4までは必ず進出し、選手権中央大会出場権を与えてあげることが、現三年生の義務だと思ふ。

そして、彼らには我々以上の創造力とテクニクをもって、全国という舞台で活躍して欲しい。

学校に道場を 弓道部

福島 崇



まだ部になって三年目という若い部にもかわらず、部員が三八名とかなり多くの者が弓道部に籍を置いている。しかし、最近の我が弓道部の成績はあまりかんなばしくない。県大会でもあと一本入つていれば入賞できたのといったケース



市営弓道場 (城南)

「黄金時代」の復活を目指して 軟式庭球部

山口 敏行



最近、高々の軟庭部は、「低迷時代」であるなどと言われている。確かに、数

年前の全国大会ベスト4という時期には比べようもない。それに加え、顧問の水先生が体を壊され、次の顧問も今年転任されてしまった。ここに、高々軟庭部は稀に見る「激動期」を迎えたと言つてよいと思う。

技術指導等もロクに受けられない、こ

のような逆境の中で、鶴飼・宮田ペアが新人戦個人で、県ベスト8に入ったのは非常に明るい材料だった。回を重ねる毎に負けていった他のペアを横目に、彼らは順調に勝ち進み、試合毎に調子を上げてゆくという素晴らしさで、強敵、前商、館林等を次々に破つていった。準々決勝で農二に惜敗したものの、彼らの成績は部員全員に、一つの希望と自信を与えてくれた。続く団体戦も、鶴飼ペアを中心に、全員一丸となり、絶対不利とされた太田工に2-1で勝ち、ベスト8に名乗りをあげた。が、ここでもまた、農二に敗れ、ベスト4進出は果たせなかった。

ここで、我々は大きな過ちを犯してしまった。「冬期体力作りの怠け」である。冬期、最も重要な走り込み、下半身の鍛練を怠つてしまったのである。その結果は、春の総体にそっくり出てしまった。個人で一ペアも関東大会出場権（ベスト16）を勝ち取れなかったばかりか、団体もベスト16という、不本意な成績に終わってしまった。ようやく新顧問の先生も決まり、清水先生も大分良くなりました。新しい出発の時であったのに――。

ともかく、三年に残された大会は、もうインターハイ予選しかない。これに向けて最大限努力するしかない。また、その後の二年生は、かなり有望とされている。おそらく好成績を残してくれるだろうが、決して驕ることなく、下半身強化の課題を克服し、近年欠けた「粘り」のある安定したテニス」を取り戻すことによつて、高々軟庭部の「黄金時代」の復活を目指して、頑張つて欲しい。

先輩、頑張ってます

現役の抱負 その3



精神面での勝利をめざして

柔道部

川崎 明



先日行なわれた学年別大会において、準々決勝戦まで勝ち残った部員が唯一

年生にいました。彼は準々決勝戦で名門育英の生徒と対戦しました。その試合前、彼には最近高々生が心のどこかに抱いていた、「ここまで来たのだから」という変な満足感や、「相手が誰々なら負けて当然」としか考えていなかったのです。結果として負けてしまいました。彼は涙を流して悔しがりました。正直言ってショックでした。我々は今までなんて甘えていたのだらうと思えました。負けたらおもいつき悔しがり、次回の勝利への第一

歩とする。それが高々柔道部には欠けていました。しかしその欠点に気づいた今、精神的に成長し、精神面での勝利をめざします。接戦において勝敗を決めるのは精神面の勝敗であり、精神面で勝つのも技術面同様稽古しかありません。やるだけのことはやったという自信は、勝負への執着につながり、試合をやる前から相手より気合で勝ることが出来ます。そして何よりも試合に集中し、燃え尽きる事が出来ます。

部員数一名と少ないのですが、その分とてもよくまとまったチームです。顧問寺町良次先生を信じ、高々魂を奮い起こして、関東大会出場をめざし頑張ります。最後に、我々の御指導に来て下さるよう先輩方をお願い申し上げます。

「気迫」をもって

剣道部

中山 道



我々剣道部は関東大会出場を目標にして毎日短い時間ながら内容の濃い練習に

励んできました。関東大会出場という目標を達成するには県総体でベスト4に入らなければなりません。先日行われた県総体では残念ながらベスト16止まりでした。

高々剣道部は技術面では他校に劣ってはいないと思います。しかし精神面、す

なわち「気迫」において他校に劣っているようです。剣道の試合は、一対一、自分か相手しかいません。お互いに向かい合い、立礼をしたときから勝負は始まります。もし相手のすさまじい気合に己れの気持が逃げたなら、それはもう負けとも同然で、逆に相手の炎の如き気迫に對し、真つ向からぶつかり、それを打ち破れば勝利というものが見えてくるであろうと思います。

「不撓不屈」という言葉があります。不撓不屈とは、どんな困難にあつてもくじけず、志をかえなまいこと。この文字は、剣道場にある、セルリアンブルーで彩られた旗にひととき大きく書かれています。我々が苦しい時、この旗は「不撓不屈」の精神を呼び覚ましてくれます。

これから、他校に劣らぬ「気迫」と、どんな困難にもくじけない「不撓不屈」の精神で、部員一丸となって練習に励み、次なる大会ではベスト4以上を目指してがんばります。

関東大会出場に向けて

空手道部

島方 一紀



「関東大会出場」が部に昇格してまだ日も浅い空手道部の目標であるが、今年

ついに県総体の男子個人組手において中央のある選手に惜しくも敗けはしました

が堂々二位という好成績で関東大会出場を果たした選手が出ました。団体組手では、優勝校の中央に激戦の末、代表決定戦で惜敗してベスト8に終わってしまいました。少しづつ上位に食い込んできているので次のインターハイ予戦に向けて一丸となって練習に励んでいます。

我が部の当面の課題としては、他校と比較して練習時間が圧倒的に短かいので、最大限に活用して頑張らなければと思つているのですが、なかなか団体組手ではあと一歩というところで辛酸をなめています。やはり、まだ練習内容にも工夫が必要であらうし、「勝つ」という執念を持つていなければならぬし、他校との練習試合の不足によって、試合形式の練習が少なくという欠点もあるので、それらを改良すべく頑張ろうと思つています。

ところで今年、部員数もかなり多くなり、活動も活発になってきたので、自らの練習も大切であるが、後輩を鍛えて部全体を向上させるように、そして関東大会、全国大会にも出場できるように選手を多く出せるように顧問の鹿野福次先生、篠原正泰先生の御指導の下で頑張ろうと思つています。

*体操部は休部中



我が高崎高校陸上競技部

陸 上 部

小沢 典裕



現在、高々陸上部員は総勢で二五名です。我々は試合で良い成績を残すために

毎日練習に励んでいます。陸上というスポーツは一見地味ですが、その地味な努力が後に記録更新という形で現れるのです。一周四〇〇Mのトラックを自分の持つ力を精一杯出して走るといふ点では、とても派手なスポーツかもしれません。さて、現在の戦力であるが、全学年とも力のある選手が多数います。しかし、群馬県全体の陸上のレベルアップに少しついていけず、以前ほど活躍できない状態です。しかし、昨年新しい顧問に、かつて十種競技でアジア大会に優勝したこともある岩井寿史先生を迎えたので、昨年こそふるわなかつたが、これほどのすばらしい指導者がいるのだから今年、来年ぐらいいはレベルが向上すると思います。いや必ず向上させてみます。我々三年が入学した年には関東大会に一〇〇M・八〇〇M・両リレーで出場したが、学校対抗で屈辱の二部転落をしてしまいました。それに昨年は関東大会に一名しか出場できず低迷しています。しかし我々の今年の目標は一人でも多く関東大会に出場し伝統ある高々陸上部の名に恥じないようにしたい。それになんといつても学校対抗で今年こそ一部に上が

ることです。以上のことを念頭に置いて練習をしていきたいと思えます。これからの高々陸上部のますますの繁栄を祈ってこれで終りにしたいと思います。

夏に向けて

野 球 部

清水 崇



我々野球部は、小林監督のもとチーム・丸となつて、夏の甲子園をむざし毎

日練習にはげんでいます。去年の夏が終わって新監督に就任した小林監督は、短い時間で、内容のある練習、目的を持った練習というような練習方法を取り、そしてそれは、我々に非常によい結果をもたらした。秋の大会のシード権を確得した。秋の大会でも、農大二高には、破れたものの、ベスト4まで勝ち進んだ。冬の練習の目的は、自分の限界をのばすことにある。そのために走り込んだりウエイトトレーニングをしたりするのでと小林監督は言う。まさにそのとおりだ



と思つた。ただ体力をつけたり、足腰を強くしたりするだけではなく、自分の限界を知り、それを越えようと努力することが自分の技術を高めるための最短コースだということである。

冬の練習が順調だったので、春の大会も調子よく、比較的楽に勝ち進んだが、準決勝で前工に完敗した。

前工戦で見られた精神的な弱さを克服しなければ、我々に甲子園はないということがわかつた。夏に向けての課題はこのことである。

山が好きです

山 岳 部

湊 浩之



現在の山岳部は、装備の進歩等により数年前に比べ大きく様変わりしました。

しかし「山に登る」ことの本質は今でも変わりありません。十年・二十年前の先輩達と全く同じ様に山に魅了され、毎日の地味なトレーニングに頑張っています。

減少の傾向にあつた部員数は、一・二年生で回復し、更に高い活動を目指す事が可能となりました。ただ、問題点としては、部費が他校に比べかなり少なく、部員増の状況でかなり苦しいという事と県の厳しい制限で、活動範囲が狭められているという事があります。

しかし「あらゆる困難を克服する」のが山岳部の精神であると思えます。これ

からも山を愛し素晴らしい伝統を築きあげてゆくことでしよう。

これからのスキー部に御期待

ス キー 部

江原 友幸



最近、「スキー」は、ファッションの一つとして考えられがちである。そんな

中で「競技スキー」のおもしろさを知りなかつ、技術の向上を、第一の目標としている。

我々スキー部も、関東予選、インターハイ予選、県新人戦、県春季大会、の四つの大会を目指し、夏の基礎トレーニングを行い、基礎体力をつけ、冬の合宿でも、昨年、ポールを購入し、午前、午後みっちり滑っている。

一昨年あたりから、関東予選を通過し関東大会本選への出場選手も、出はじめ増々、「競技スキー」への関心も高まりつつある。

私事になつてしまふが、私も、スキー部に入部し「普通のスキー」から「競技スキー」に、あこがれ、ただ滑べるだけでは、ものたりなさを感じている。あのポールに向つていく時の緊迫感がなんとも言えない。他の部員も似た様な感想を持ってはいるはずである。

このような努力の結果とし、関東大会出場、のちには、インターハイへの出場を果したいと思えます。



第三八・三九・四〇回
高々・前高定期戦

第38回 得点集計表 (昭和59年度)

| 総合 | 小計 | ソフトボール | 弓道 | 硬式庭球 | 野球 | 剣道 | 柔道 | サッカー | ラグビー | 水泳 | 球入れ | 綱引き | 駅伝 | 卓球 | 軟式庭球 | バレーボール | バスケット | 陸上 | 競技種目 | |
|------|------|--------|----|------|----|----|----|------|------|----|-----|-----|-----|----|------|--------|-------|----|------|----|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 一般部 | 高々 |
| 78.5 | 32.5 | | | | | | | | | 6 | 6 | 0 | 1.5 | 4 | 6 | 6 | 3 | 0 | 一般部 | 高々 |
| | 51 | | 6 | 6 | 0 | 0 | 6 | 3 | 6 | | | | | 6 | 6 | 0 | 6 | 6 | 一般部 | 高々 |
| 77.5 | 48.5 | | | | | | | | | 3 | 3 | 9 | 7.5 | 5 | 3 | 3 | 6 | 9 | 一般部 | 前高 |
| | 21 | | 0 | 0 | 6 | 6 | 0 | 3 | 0 | | | | | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 一般部 | 前高 |

第39回 得点集計表 (昭和60年度)

| 総合 | 小計 | ソフトボール | 弓道 | 硬式庭球 | 野球 | 剣道 | 柔道 | サッカー | ラグビー | 水泳 | 球入れ | 綱引き | 駅伝 | 卓球 | 軟式庭球 | バレーボール | バスケット | 陸上 | 競技種目 | |
|----|----|--------|----|------|----|----|----|------|------|----|-----|-----|----|----|------|--------|-------|----|------|----|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 一般部 | 高々 |
| 97 | 43 | | | | | | | | | 9 | 6 | 3 | 6 | 5 | 3 | 6 | 5 | 0 | 一般部 | 高々 |
| | 54 | | 6 | 6 | 0 | 6 | 6 | 0 | 6 | | | | | 6 | 0 | 6 | 6 | 6 | 一般部 | 高々 |
| 50 | 32 | | | | | | | | | 0 | 3 | 3 | 3 | 4 | 6 | 3 | 4 | 6 | 一般部 | 前高 |
| | 18 | | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 6 | 0 | | | | | 0 | 6 | 0 | 0 | 0 | 一般部 | 前高 |

第40回 得点集計表 (昭和61年度)

| 総合 | 小計 | ソフトボール | 弓道 | 硬式庭球 | 野球 | 剣道 | 柔道 | サッカー | ラグビー | 水泳 | 球入れ | 綱引き | 駅伝 | 卓球 | 軟式庭球 | バレーボール | バスケット | 陸上 | 競技種目 | |
|------|------|--------|----|------|----|----|----|------|------|----|-----|-----|----|----|------|--------|-------|----|------|----|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 一般部 | 高々 |
| 78.5 | 30.5 | 4.5 | | | | | | | | 9 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 | 5 | 4 | 3 | 一般部 | 高々 |
| | 48 | | 6 | 6 | 中止 | 0 | 6 | 6 | 6 | | | | | 6 | 0 | 6 | 6 | 0 | 一般部 | 高々 |
| 77.5 | 59.5 | 4.5 | | | | | | | | 0 | 9 | 9 | 9 | 7 | 6 | 4 | 5 | 6 | 一般部 | 前高 |
| | 18 | | 0 | 0 | 中止 | 6 | 0 | 0 | 0 | | | | | 0 | 6 | 0 | 0 | 6 | 一般部 | 前高 |

通算成績

高々 22勝
前高 13勝
引分け 3
中止 2

高々・前高定期戦は、昨年も勝つて五年連続のVを達成し、母校の意気も盛んです。

昭和57年度
高々運動部活動状況

◇バスケット

第17回県総体

高々 80-53 沼田 準決勝
高々 57-65 前橋 準優勝

県選手権兼全国総体

高々 70-55 伊東 準決勝
高々 70-52 前橋 優勝

新人大会兼選抜大会

(決勝リーグ)
高々 58-53 高商
高々 73-36 桐工

高崎 57-58 太田 準優勝

◇バレーボール

第17回県総体

高々 2-0 富岡 1回戦
高々 2-0 伊工 2回戦
高々 0-2 桐商 ベスト4

県選手権兼全国総体

高々 2-0 中之条 4回戦
高々 2-0 太商 5回戦
高崎 0-2 高商 ベスト4

国体県予選

高々 2-1 伊東 4回戦
高々 0-2 中央 ベスト8

◇軟式庭球

第17回県総体

(決勝リーグ)
高々 2-1 農二
高々 3-0 高商

高々 3-0 吉井 優勝
高々 3-0 伊工 1回戦

全国選手権予選(団体2次)
高々 3-0 伊工 1回戦

高崎 3-0 太田 2回戦
高々 3-0 吉井 3回戦
高々 3-0 農二 優勝

(関東大会)

高々 2-1 成東(千) 2回戦
高々 2-1 作新(栃) 3回戦
高々 1-2 松山(埼) 3位

第7回全日本選抜

高々 3-0 塩田工(佐) 1回戦
高々 2-1 上宮(大) 2回戦
高々 1-2 成東(千) ベスト4

◇卓球

第17回県総体

高々 3-0 高北 2回戦
高々 0-3 富岡 ベスト16

県選手権(シングルス)

高々(田中) 2-0 桐丘 1回戦
高々 2-1 富岡 2回戦
高々 0-2 桐生 ベスト4
(ランキング9位)

◇ラグビー

第17回県総体

(予選Cブロック2位代表)
高々 28-12 太田 1回戦
高々 16-6 農二 2回戦
高々 16-18 前商 準優勝

(関東大会)
高々 31-0 日大明誠(山) 1回戦
高々 3-25 桐蔭 2回戦

選手権大会

(Cブロック1位代表)
高々 46-0 高工 1回戦
高々 12-6 太田 2回戦
高々 15-12 農二 優勝

第62回全国大会

高々 19-3 熊本工(熊) 1回戦

◇サッカー

第17回県総体

高々 2-0 太田 3回戦
高々 0-0(PK負)沼田 ベスト8

全国総体

高崎 13-0 吉井 2回戦
高々 4-0 桐西 3回戦
高々 2-1 沼田 4回戦
高々 0-2 藤岡 ベスト4

選手権大会

(西毛地区予選1位代表)
高々 0-1 前工 ベスト8

◇柔道

第17回県総体

高々 4-0 中之条 2回戦
高々 3-1 樹徳 3回戦
高々 4-0 桐生 4回戦
高々 0-5 前商 ベスト4

県選手権

高々 3-2 中之条 2回戦
高々 4-1 樹徳 3回戦
高々 1-3 藤岡 ベスト8

◇剣道

第17回県総体

高々 5-5 勢農(予)
高々 4-4 前商(リーグ)
高々 4-4 前橋(リーグ)
高々 4-4 高北 準優勝

第29回全国県予選

高崎 7-5 館林 1回戦
高々 4-4 前橋 2回戦
高々 4-4 農二 3位

◇硬式庭球

第17回総体

高々 2-1 桐生 1回戦
高々 2-1 伊東 2回戦
高々 2-0 桐商 3回戦
高々 1-2 前橋 ベスト4

◇空手

第17回県総体(団体空手)

高々 5-0 万場 1回戦
高々 2-3 伊商 ベスト8

◇陸上

第17回県総体

四百M 加藤 由久 二位
四百M 丸山 龍雄 三位
4×四百M R 一位

混合競技・記録会

三千M 黒沢 一道 一位
学校対抗 丸山 龍雄 三位
二百M 加藤 由久 一位
四百M (総合 9位)

◇水泳

第17回県総体

百自由 高橋直一郎 二位
二百個メドレー 高橋直一郎 三位
四百個メドレー 高橋 律行 三位
四百R 四位
八百R 三位
四百メドレー R 二位

関東大会予選

百自由 高橋直一郎 三位
二百個メドレー 高橋直一郎 二位
四百個メドレー 高橋 律之 一位
四百R 三位
四百メドレー R 二位

昭和58年度
高々運動部活動状況

◇バスケット
第18回県総体

高々 103-39 渋工 2回戦
高々 89-50 渋川 3回戦
高々 101-64 中央 4回戦
高々 47-39 太田 ベスト4
強化大会
高々 114-39 新島 2回戦
高々 54-51 前工 3回戦
高々 92-46 佐波農 4回戦
高々 63-62 渋川 準決勝
高々 78-67 桐生 優勝
新人大会兼選抜大会

◇軟式庭球
第18回県総体

高々 2-1 育英 3回戦
高々 2-1 前橋 ブロック代表
高々 0-2 桐商 (決勝リーグ)
高々 2-0 前商 3位
選手権大会
高々 3-0 伊商 2回戦
高々 3-0 桐生 3回戦
高々 1-2 農二 ベスト8

◇卓球
第18回県総体

高々 3-0 渋市工 1回戦
高々 2-1 前商 2回戦
高々 0-3 農二 ベスト4
新人大会
高々 3-0 嬉恋 1回戦
高々 3-0 下仁田 2回戦
高々 0-3 沼田 ベスト16
新人大会
高々 3-0 沼田(定) 1回戦
高々 3-0 前西 2回戦
高々 0-3 中央 ベスト16

◇ラグビー
第18回県総体

高々 2-1 育英 3回戦
高々 2-1 前橋 ブロック代表
高々 0-2 桐商 (決勝リーグ)
高々 2-0 前商 3位
選手権大会
高々 3-0 伊商 2回戦
高々 3-0 桐生 3回戦
高々 1-2 農二 ベスト8

◇サッカー
第18回県総体

高々 4-1 太田 2回戦
高々 4-2 沼田 3回戦
高々 1-1 前工 4回戦(PK勝)
高々 4-1 館林 準決勝
高々 0-1 育英 準優勝
全国総体
高々 1-1 藤岡 5回戦(PK勝)
高々 0-3 前南 ベスト4
選手権予選(予シード)中央大会
高々 4-0 新島 1回戦
高々 0-3 前商 ベスト8

◇柔道
第18回県総体

高々 2-1 西邑楽 2回戦
高々 3-0 長野原 3回戦
高々 1-3 藤岡 ベスト8
県新人大会
高々 3/4 中央 1回戦
高々 2/4 育英 ベスト8

◇剣道
第18回県総体

高々 2-1 西邑楽 2回戦
高々 3-0 長野原 3回戦
高々 1-3 藤岡 ベスト8
県新人大会
高々 3/4 中央 1回戦
高々 2/4 育英 ベスト8

◇弓道
第18回県総体

(個人) 利光 忍 二位
県選手権
(個人) 柳沢 志好 二位

◇硬式庭球
第18回県総体

高々 3-0 桐工 2回戦
高々 3-0 藤岡 3回戦

◇陸上
第18回県総体

高々 2-1 伊東 準決勝
高々 1-2 前商 準優勝
(ダブルス)長谷川・斉藤組 優勝
新人大会
高々 3-2 前橋 2回戦
高々 3-2 新島 3回戦
高々 1-3 前商 ベスト4
第18回県総体
・四百MH 中曾根正人 三位
・走高跳 島村 英貴 一位
・走幅跳 武井 務 三位
学校対抗
(総合 四位)
・千五百M 黒沢 一道 三位
・五千M 黒沢 一道 二位
・走幅跳 武井 務 二位
・走高跳 島村 英貴 一位
(総合 五位)

◇水泳
第18回県総体

・四百M自由 吉田 五郎 一位
・百M平泳 今井謙一郎 二位
・二百M平泳 今井謙一郎 三位
・百Mバタフライ 吉田 直文 三位
・二百Mバタフライ 吉田 直文 三位
・二百M個人メドレー 高橋 匡史 一位
・四百Mメドレー 高橋 匡史 一位
新人大会
・四百M自由 吉田 五郎 一位
・百M平泳 今井謙一郎 二位
・二百M平泳 今井謙一郎 三位
・百Mバタフライ 吉田 直文 三位
・二百Mバタフライ 吉田 直文 三位
・二百M個人メドレー 高橋 匡史 一位
・四百Mメドレー 高橋 匡史 一位

◇バレーボール
第18回県総体

高々 2-0 前工 2回戦
高々 2-0 伊工 3回戦
高々 0-2 前商 ベスト4
選手権大会
高々 2-0 西邑楽 4回戦
高々 0-2 高商 ベスト8
全国選抜
高々 2-0 沼田 2回戦

高々 80-6 伊東 2回戦
高々 15-12 前商 3回戦
高々 9-9 太田 (抽選負) ベスト4

高々 3-0 藤岡 3回戦

・四百M自由 吉田 五郎 一位
・百M平泳 今井謙一郎 二位
・二百M平泳 今井謙一郎 三位
・百Mバタフライ 吉田 直文 三位
・二百Mバタフライ 吉田 直文 三位
・二百M個人メドレー 高橋 匡史 一位
・四百Mメドレー 高橋 匡史 一位

昭和59年度
高々運動部活動状況

◇陸上

第19回県総体

- ・四百M 関口 智也 六位
- ・千五百M 黒沢 一道 二位
- ・五千M 黒沢 一道 一位
- ・四×百R 武井 務 一位

第37回学校対抗 (総合5位)

- ・百M 佐藤 正紀 四位
- ・二百M 佐藤 正紀 五位
- ・千五百M 黒沢 一道 五位
- ・五千M 黒沢 一道 一位
- ・走幅跳 武井 務 二位

◇水泳

- 新人大会 (総合七位)
- ・百M 佐藤 正紀 一位
- ・八百M 武井 義之 三位
- ・千五百M 高橋 健一 五位

◇バスケット

- 新人大会
- ・二百平 今井謙一郎 二位
- ・百バタ 酒井 隆 二位
- ・四百自由 木ノ内宏明 三位
- ・千五百自由 岡田 準 三位
- ・四百メドレーR 二位
- ・四百R 三位
- 第19回県総体

- 高々 99-24 波西 2回戦
- 高々 87-50 農二 3回戦
- 高々 76-51 館林 4回戦
- 高々 44-59 高商 ベスト4

◇バレーボール

第19回県総体

- 高々 2-0 伊工 4回戦
- 高々 2-0 洪川 5回戦
- 高々 0-2 桐市商 ベスト4
- 選手権 高々 1-2 農二 4回戦
- 国体予選 高々 2-0 洪工 2回戦
- 高々 2-0 松井田 3回戦
- 高々 0-2 富岡 ベスト16

◇軟式庭球

- 県高校総体 (ベスト4)
- 全国選手権 準優勝
- 新人大会 準優勝

◇ラグビー

- 県高校総体
- 高々 23-4 桐生 2回戦
- 高々 43-0 太工 3回戦
- 高々 16-9 太田 4回戦

- 高々 22-0 農二 (優勝)
- 第39回国体予選 高々 11-0 伊東 4回戦
- 高々 9-28 農二 (準優勝)

◇柔道

- 第32回関東大会 高々 20-3 宇都宮楠
- 高々 22-12 千葉東(千)
- 第64回全国大会 高々 17-8 和歌山工(和天理(奈))
- 高々 3-16

◇サッカー

- 第19回県高校総体 高々 1-0 農二 3回戦
- 高々 6-0 安中 4回戦
- 高々 1-1 前商 PK負ベスト8
- 全国総体 高々 5-0 育英 4回戦
- 高々 1-1 富岡 PK勝 5回戦
- 高々 1-2 高商 ベスト4
- 選手権予選 西毛一次リーグ Aブロック1位
- 2次トーナメント 1位
- 中央大会 高々 3-2 館林 1回戦
- 高々 3-0 西邑楽 2回戦
- 高々 1-1 高商 PK勝準決勝
- 高々 1-7 前商 準優勝

- 第19回県総体 高々 2-2 前橋 1回戦
- 高々 3-0 高工 2回戦
- 高々 1-2 農二 ベスト16

◇剣道

- 第19回県総体 高々 4-1 太田 2回戦
- 高々 4-1 桐南 3回戦
- 高々 0-5 前商 ベスト8
- 第32回全国総体 高々 3-2 桐生 1回戦
- 高々 0-4 前商 ベスト8
- 高々 4-1 前東 1回戦
- 高々 1-2 中央 ベスト8

◇弓道

- 春季大会 決勝トーナメント 高々 6-4 前商 1回戦
- 高々 9-7 桐生 2回戦
- 高々 5-4 勢農 優勝

◇庭球

- 第19回県総体 高々 3-0 常盤 1回戦
- 高々 2-1 伊商 2回戦
- 高々 2-1 桐商 3回戦
- 高々 0-2 太田 ベスト4

◇水泳

- 第19回県総体 第5位 (学校対抗)



昭和60年度
高々運動部活動状況

◇バスケット部

第20回県総体

| | | | | | |
|------|-----|----|-----|------|----|
| 高々 | 96 | 69 | 利商 | 1 | 回戦 |
| 高々 | 115 | 55 | 前工 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 61 | 53 | 前商 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 66 | 51 | 伊東 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 34 | 75 | 高商 | 準決勝 | |
| 高々 | 64 | 59 | 桐生 | 三位 | |
| 県選手権 | | | | | |
| 高々 | 132 | 33 | 長野原 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 106 | 54 | 渋川 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 83 | 76 | 育英 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 53 | 58 | 太田 | ベスト4 | |

◇バレーボール

第20回県総体

| | | | | | |
|------|---|---|-----|-------|----|
| 高々 | 2 | 0 | 県央 | 1 | 回戦 |
| 高々 | 2 | 0 | 高東 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 2 | 0 | 館林 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 2 | 伊東 | ベスト16 | |
| 県選手権 | | | | | |
| 高々 | 2 | 0 | 松井田 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 2 | 0 | 安中 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 2 | 1 | 桐生 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 2 | 農二 | ベスト8 | |

◇国体予選

第17回全国選抜

| | | | | | |
|----|---|---|-----|------|----|
| 高々 | 0 | 2 | 太東 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 2 | 0 | 中之条 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 2 | 1 | 太田 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 2 | 前商 | ベスト8 | |

◇軟式庭球

第20回県総体

(ベスト16)

◇卓球

新人大会

(ベスト16)

◇ラゲビー

第20回県総体

| | | | | | |
|------------|----|----|----|------|----|
| 高々 | 30 | 10 | 前橋 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 45 | 4 | 桐工 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 22 | 農二 | ベスト4 | |
| 国体予選(第40回) | | | | | |
| 高々 | 87 | 0 | 桐生 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 14 | 10 | 前商 | 準決勝 | |
| 高々 | 4 | 24 | 農二 | 準優勝 | |

◇全国総体

Cプロック1位代表決勝トーナメント

| | | | | | |
|----|----|----|----|-----|--|
| 高々 | 34 | 0 | 高商 | | |
| 高々 | 23 | 10 | 前商 | | |
| 高々 | 3 | 13 | 農二 | 準優勝 | |

◇サッカー

第20回県総体

| | | | | | |
|------|---|---|-----|------|------|
| 高々 | 4 | 0 | 前工 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 1 | 0 | 中央 | 5 | 回戦 |
| 高々 | 1 | 1 | 西邑楽 | PK負 | ベスト4 |
| 全国総体 | | | | | |
| 高々 | 6 | 1 | 県央 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 4 | 育英 | ベスト8 | |

◇選手権予選

西毛一次リーグ Bグループ1位代

| | | | | | |
|------------|---|---|----|--|--|
| 中央大会 | | | | | |
| 表、2次トーナメント | 1 | 位 | | | |
| 高々 | 1 | 3 | 前商 | | |

◇柔道

第20回県総体

高々 ○× 新島 2回戦

高々 5-0 榛名 3回戦

高々 0-4 前商 ベスト8

◇弓道

選手権・全国総体

3位

◇空手

県選手権兼第12回全国予選

| | | | | | |
|----|---|---|--------|-------|----|
| 高々 | 4 | 1 | 利農(組手) | 1 | 回戦 |
| 高々 | 1 | 4 | 渋川 | ベスト16 | |

◇陸上

第20回県総体

| | | |
|---------|-------|----|
| ・百M | 佐藤 正紀 | 二位 |
| ・八百M | 武井 義之 | 一位 |
| 学校対抗 | | |
| ・百M | 佐藤 正紀 | 三位 |
| (総合11位) | | |
| 新人大会 | | |
| ・走幅跳 | 白隈 洋 | 一位 |
| ・三段跳 | 白隈 洋 | 二位 |

◇水泳

第20回県総体

| | | |
|------------|-------|----|
| ・千五百自由形 | 多胡 誠久 | 二位 |
| 新人大会 | | |
| ・百M平泳 | 住谷 宗一 | 三位 |
| ・二百M平泳 | 住谷 宗一 | 二位 |
| ・二百Mバタフライ | 小坂橋宏康 | 三位 |
| ・二百M個人メドレー | 高橋仁志 | 二位 |
| 選手権予選 | | |
| ・千五百M自由形 | 多胡 誠久 | 三位 |

硬式野球記録

昭和五七年度

6回選手権大会 (7月)

| | | | | | |
|----|----|---|----|------|----|
| 高々 | 10 | 2 | 榛名 | 1 | 回戦 |
| 高々 | 3 | 0 | 伊商 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 6 | 4 | 前商 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 1 | 4 | 高商 | ベスト8 | |

昭和五八年度

秋季関東大会 (10・11月)

| | | | | | |
|----|---|---|----|-----|----|
| 高々 | 8 | 2 | 渋川 | 1 | 回戦 |
| 高々 | 5 | 2 | 伊東 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 4 | 2 | 前商 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 3 | 2 | 樹徳 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 4 | 2 | 前橋 | 準決勝 | |
| 高々 | 2 | 6 | 高商 | 準優勝 | |

昭和五九年度

春季関東大会 (5月)

| | | | | | |
|----|---|---|----------|-----|----|
| 高々 | 1 | 0 | 印旛(予) | 2 | 回戦 |
| 高々 | 3 | 2 | 東海大甲府(山) | 3 | 回戦 |
| 高々 | 1 | 0 | 創価(東) | 準決勝 | |
| 高々 | 2 | 7 | 前工(群) | 準優勝 | |

昭和五七年度

第65回選手権大会 (7月)

| | | | | | |
|----|---|---|----|------|----|
| 高々 | 7 | 0 | 藤工 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 1 | 0 | 前東 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 5 | 太工 | ベスト8 | |

昭和五八年度

第36回秋季関東大会県予選

| | | | | | |
|----|---|---|----|---|----|
| 高々 | 8 | 5 | 蚕糸 | 1 | 回戦 |
| 高々 | 2 | 4 | 前商 | 2 | 回戦 |

昭和五九年度

第66回選手権大会 (7月)

| | | | | | |
|----|---|---|----|---|----|
| 高々 | 6 | 0 | 渋西 | 1 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 7 | 前橋 | 2 | 回戦 |

昭和61年度
高々運動部活動状況

◇バスケット

第21回県総体

| | | | | | |
|----|-----|----|----|-----|----|
| 高々 | 66 | 40 | 前商 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 107 | 57 | 大泉 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 66 | 61 | 太田 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 90 | 69 | 育英 | 準決勝 | |
| 高々 | 51 | 89 | 高商 | 準優勝 | |

県選手権

| | | | | | |
|----|-----|----|-----|-----|----|
| 高々 | 105 | 48 | 太田東 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 95 | 32 | 大泉 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 126 | 48 | 前工 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 89 | 61 | 育英 | 準決勝 | |
| 高々 | 47 | 67 | 高商 | 準優勝 | |

第40回関東選手権

| | | | | | |
|----|----|----|-------|-----|----|
| 高々 | 95 | 62 | 大宮東 | 1 | 回戦 |
| 高々 | 78 | 64 | 日大豊山 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 62 | 55 | 都立西 | 準決勝 | |
| 高々 | 91 | 90 | 東海大浦安 | 優勝 | |

◇バレーボール

第21回県総体

| | | | | | |
|----|---|---|----|------|----|
| 高々 | 2 | 0 | 高北 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 2 | 高商 | ベスト8 | |

県選手権

| | | | | | |
|----|---|---|----|------|----|
| 高々 | 2 | 0 | 太工 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 1 | 2 | 伊東 | ベスト8 | |

国体予選

| | | | | | |
|----|---|---|----|------|----|
| 高々 | 2 | 0 | 渋川 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 2 | 桐商 | ベスト8 | |

◇軟式庭球

表 2次トーナメント 1位

◇空手

第21回県総体

◇水泳

新人大会
・百M自由形 多胡 誠久 一位
・四百MR 二位

中央大会

| | | | | | |
|----|---|---|----|-------|----|
| 高々 | 2 | 1 | 前南 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 2 | 中央 | ベスト16 | |

◇卓球

第21回県総体

| | | | | | |
|----|---|---|----|------|----|
| 高々 | 2 | 1 | 勢多 | 1 | 回戦 |
| 高々 | 2 | 1 | 常盤 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 2 | 1 | 樹徳 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 3 | 沼田 | ベスト8 | |

◇ラグビー

第21回県総体

| | | | | | |
|----|----|---|----|------|----|
| 高々 | 22 | 0 | 高商 | 1 | 回戦 |
| 高々 | 32 | 0 | 県央 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 7 | 前橋 | ベスト8 | |

◇サッカー

第21回県総体

| | | | | | |
|----|---|---|----|-----|------|
| 高々 | 2 | 0 | 前西 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 0 | 高商 | PK負 | ベスト8 |

全国総体

| | | | | | |
|----|---|---|----|------|--|
| 高々 | 1 | 0 | 新島 | ベスト8 | |
| 高々 | 2 | 7 | 育英 | ベスト8 | |

選手権予選

西毛1次リーグ Bグループ1位代

◇柔道

県選手権

| | | | | | |
|----|---|---|-----|-------|----|
| 高々 | 5 | 0 | 西邑楽 | 1 | 回戦 |
| 高々 | 3 | 1 | 利農 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 1 | 3 | 利商 | ベスト16 | |

新人大会

| | | | | | |
|----|---|---|----|------|----|
| 高々 | 1 | 0 | 太工 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 2 | 0 | 万場 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 5 | 前商 | ベスト8 | |

◇剣道

第33回全国総体予選

| | | | | | |
|----|---|---|----|------|----|
| 高々 | 3 | 1 | 高工 | 1 | 回戦 |
| 高々 | 1 | 3 | 高商 | ベスト8 | |

◇庭球

第21回県総体

| | | | | | |
|----|---|---|----|------|----|
| 高々 | 3 | 0 | 渋川 | 1 | 回戦 |
| 高々 | 2 | 1 | 桐工 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 2 | 1 | 伊東 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 1 | 2 | 沼田 | ベスト4 | |

新人大会

| | | | | | |
|----|---|---|-----|------|----|
| 高々 | 3 | 0 | 桐工 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 3 | 1 | 西邑楽 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 3 | 高工 | ベスト4 | |

第37回秋季関東大会県予選

| | | | | | |
|----|----|---|----|------|----|
| 高々 | 9 | 4 | 藤岡 | 1 | 回戦 |
| 高々 | 6 | 1 | 沼田 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 4 | 3 | 前商 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 10 | 7 | 関学 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 7 | 農二 | 準決勝 | |
| 高々 | 4 | 5 | 前橋 | ベスト4 | |

昭和六〇年度

第67回選手権大会 (7月)

| | | | | | |
|----|---|---|----|---|----|
| 高々 | 8 | 1 | 太田 | 1 | 回戦 |
| 高々 | 1 | 4 | 関学 | 2 | 回戦 |

昭和六一年度

第68回選手権大会 (7月)

| | | | | | |
|----|---|---|-----|---|----|
| 高々 | 2 | 4 | 佐波農 | 1 | 回戦 |
|----|---|---|-----|---|----|

第39回秋季関東大会県予選

| | | | | | |
|----|---|---|--------|------|----|
| 高々 | 7 | 0 | 太商 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 6 | 2 | 吉井 | 3 | 回戦 |
| 高々 | 1 | 0 | 前工 | 4 | 回戦 |
| 高々 | 0 | 2 | 農二(準決) | ベスト4 | |

◇陸上

第21回県総体

| | | | | | |
|----|---|---|----|------|----|
| 高々 | 3 | 2 | 農二 | 1 | 回戦 |
| 高々 | 4 | 0 | 利農 | 2 | 回戦 |
| 高々 | 2 | 3 | 中央 | ベスト8 | |

三段跳

日隈 晃 四位

翠巒体育会役員名簿 (昭六二・三・三一)

| 柔道 | 水泳 | サッカー | ラグビー | バレー | バスケット | 軟式庭球 | 卓球 | 陸上 | 理事 | 顧問 | 監査 | 副会長 | 会長 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|------|--------|-------|--------|-------|------|-------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|----|--|-------|--|--|--|-------|--|--|--|-------|--|--|--|-------|--|--|--|------|--|--|--|-------|--|--|--|--------|--|--|--|-------|--|--|--|-------|--|--|--|-------|--|--|--|------|--|--|--|------|--|--|--|-------|--|--|--|------|--|--|--|-------|--|--|--|-------|--|--|--|-------|--|--|--|-------|--|--|--|-------|--|--|--|-------|--|--|--|-------|--|--|--|-------|--|--|--|--------|--|--|--|
| 東瀬 朝紀 | 関口 茂樹 | 石井 清一 | 秋池 宗一郎 | 湯浅 潔 | 小此木 哲勝 | 清野 哲茂 | 阿久沢 義夫 | 佐藤 義夫 | 田中 彰 | 木村 嘉洋 | 設楽 岩吉 | 深沢 幹 | 下村 昭 | 織茂 恒 | 片野 敬三 | 友松 武雄 | 岩田 定夫 | 反町 章司 | 塚越 哲彦 | 勝保 真 | 山口 正敏 | 深沢 昇 | 廣田 誠四郎 | 大須賀 正臣 | 大田部 保 | 岡田 由重 | 清水 貞保 | 国峯 善次郎 | 東田 誠四郎 | 阿久沢 秀和 | 秋池 宗一郎 | 山口 正敏 | 小沢 武男 | 設楽 嘉男 | 岩田 武雄 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 69 | 63 | 57 | 65 | 56 | 56 | 74 | 69 | 58 | 50 | 59 | 57 | 52 | 62 | 50 | 49 | 61 | 53 | 50 | 58 | 55 | 52 | 58 | 57 | 64 | 57 | 52 | 30 | 50 | 64 | 51 | 69 | 65 | 58 | 57 | 57 | 53 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 住所 | | | | 電話 | | | | 学校側顧問 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 岩井 寿史 | | | | 武井 茂雄 | | | | 井本 嘉宣 | | | | 児島 修 | | | | 徳安 茂 | | | | 清水 敏男 | | | | 今井 俊治 | | | | 大山 勝男 | | | | 川嶋 尚武 | | | | 井上 澄男 | | | | 塚田 元樹 | | | | 生形 優 | | | | 矢島 哲雄 | | | | 志村 紀三雄 | | | | 富田 裕二 | | | | 森戸 慶二 | | | | 波戸 慶二 | | | | 吉野 慶 | | | | 原野 勉 | | | | 原田 光男 | | | | 服部 潤 | | | | 飯塚 裕二 | | | | 富田 裕二 | | | | 飯塚 裕二 | | | | 島田 秀雄 | | | | 染谷 裕二 | | | | 岡田 豊次 | | | | 寺町 豊次 | | | | 岡田 豊次 | | | | 小笠原 祐治 | | | |

| 剣道 | 山岳 | 野球 | 応援 | 硬式庭球 | 弓道 | スキー・スケート | 空手道 | 編集部長 | 事務局長 | 氏名 | 回 | 住所 | 電話 | 学校側顧問 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|-------|-------|-------|-------|----|----|----|-------|--|--|--|-------|--|--|--|--------|--|--|--|-------|--|--|--|------|--|--|--|------|--|--|--|------|--|--|--|-------|--|--|--|-------|--|--|--|
| 横野 宏一 | 吉野 正茂 | 清水 征哉 | 酒井 忠義 | 井上 安義 | 田島 昭樹 | 小川 均 | 丸山 功一 | 丸山 功一 | 川嶋 裕二 | 秋山 賢治 | 74 | | | 上野 臣吾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 69 | 60 | 49 | 49 | 77 | 62 | 57 | 46 | 59 | 62 | 55 | 68 | 58 | 55 | 富沢 栄世 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 住所 | | | | 電話 | | | | 学校側顧問 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 藤原 正泰 | | | | 鹿野 福次 | | | | 矢島 哲雄 | | | | 池之上 信久 | | | | 小林 俊之 | | | | 田端 稷 | | | | 奇藤 隆 | | | | 樋口 久 | | | | 富沢 栄世 | | | | 上野 臣吾 | | | |

編集後記

本号もまたまた遅れてしまい申し訳ございません。今回は、田中彰先生の手を煩わさず若手二人で編集しましたが、予想以上に難しく困惑しました。また内容も不満な点が大いのですが、次号は今号を踏み台としてもう少し充実したものにしたいと思っておりますので期待下さい。

翠巒体育 第九号
 昭和62年6月23日発行
 翠巒体育会事務局
 〒三七〇 高崎市八千代町二一四一
 群馬県立高崎高等学校内
 電話 〇二七三(二四)〇〇七四
 印刷 (有)オーサキ